



特別
子13
3980
2



天13  
39



戲子名所圖會卷之二目錄

曲亭馬琴子編

市川山三舛堂  
いちがわさんみづらぎどう

市紅院團像  
いちこういんだんざう

高麗山錦江仙人栖  
こうらいさんきんかうせんじん

彦三祠  
ひこさのやま

高麗寺金舛水  
こうらいじのきんみづ

嵐山三八堂  
あざなさんぱちだう

襲助箱荷  
おしすけのひらり

大友社  
おほとも

海老藏寄所菴室  
えびざうきよところあんむろ

團三樓子藥師  
だんさんろうしやくし

中車寺笹輪堂  
なかつぐるじやさしりんだう

尾上松  
おの上のまつ

坂三津塔  
さかさんづのとう

瀧野谷楓  
たきのやのあけ

徳治山  
とくぢのやま

友藏主艸菴  
ともざうしゅしやくあん

わづらひのちこまぢわ  
荒五樓新三外井

おえどの  
江戸之鼻

えどと  
江戸にての外子

あま  
あま  
かうりしき

壱十郎が

いさの  
三月





市川山六世の三并主ハ去載五月十三日就木ノ旨言自到本利と六字の碑改  
 春秋よりくまに廿二の古伝とあり。是よりて當寺ハ姑空ノ地ノ御寺ト  
 此の地ハ東武俳優家才一の名所あり。ふるくくく不御後隱居を  
 中ノ建乃か。り。に。あ。り。し。の。合。名。の。芳。き。一。大。樹  
 あり。不可思議。此。地。なる。が。な。り。に。七。代。目。お。後。の。縁。化。因。説。ホ。世。書。の。後。編  
 著。是。也。

市川山三舛堂

奉為成田不動の寫ハ、牛沙汰の能ハ、

老人の瑞依佛なり。團十老五粒院白猿隱居古人三舛主す。

於て六代は名山あり。今の海老翁寄所小即く、  
柳當山、寛文

延宝の元祖、牛名佛、覺榮、開基、此靈地ありと。代々鼻の名

所とあり。亦、此こゝに紙おはすのこゝと貴殿せり。實了具負

合位諸人も教の名山なり。境内は名不驚、法甚ぶ、ま。

三座侍未智乃肖像ハ、家の藝堂小安置せり。元これ、柄は、

袍の肉侍乃守奉る、大有力、馬女の建立あり。此、此の兜六

代乃大立物。今、此の妙神と崇、此あり。神本の角柱ハ、その名、指

と、其、此あり。靈堂は、荒、琴ハ、その曲、其國あり。此、此あり。亦、此あり。

不破の関ハ、三舛の門は、此あり。先と、延宝年中乃、道、宮、小

して、稻妻の名所なり。

稻妻は、此あり。まり、此あり。不破乃、其、角

後、此、此あり。此、此あり。是、此、三舛の門と、此、此あり。此、此あり。

小助六の八枚寺あり。名物は、此あり。此、此あり。此、此あり。寺、此あり。

了、此、此あり。此、此あり。五葉牡丹の名所あり。去、此あり。

月、此、此あり。海老翁之、此、此あり。古、此、此あり。古、此、此あり。

中村小、此、此あり。宗、此、此あり。古、此、此あり。此、此あり。此、此あり。

三、此、此あり。此、此あり。家は、此、此あり。此、此あり。此、此あり。

外、此、此あり。此、此あり。此、此あり。此、此あり。此、此あり。





鶏鳴自起<sub>ニ</sub>束<sub>ニ</sub>  
 行装<sub>ヲ</sub> 征<sub>ル</sub>人<sub>ト</sub>  
 同伴<sub>ト</sub> 我<sub>ガ</sub>忙<sub>シ</sub>  
 却<sub>シ</sub>更<sub>ニ</sub>有<sub>リ</sub>人<sub>ト</sub>忙<sub>シ</sub>  
 似<sub>シ</sub>我<sub>ニ</sub>  
 蹇蹄<sub>ト</sub>先<sub>ニ</sub>印<sub>ス</sub>橋<sub>ト</sub>  
 上<sub>ニ</sub>霜<sub>ト</sub>  
 李<sub>ノ</sub>笠<sub>ノ</sub>翁<sub>ト</sub>

市川の流



市紅院團像  
 團三樓子葉師  
 友藏主艸菴  
 荒五樓三井

景清坐行松 六部深雪

今こゝ舟園十印や 鬼冬外 其角

天狗竹 糸十郎がくま乃山 京傳

海老藏寄所菴室 當寺子後の守本尊あり。三井堂

の境内和泉山乃麓小安置せり。幸ハ三井堂は縁記ふる。六

み川 ままを元水くぬみ此節 其角

市紅院團像 立物のなき市川流の大地あり。元禄年中

乃建立今三世及び。市紅院此門ハおありて正徳五年を

乃のどく一文字は關鍵を附し。享保六年より又關鍵を

とりて元の門とあること人より知る所なり。當寺此團像併ハ

先亀谷より出く。後中村ふる。明和六年より市川流の

帰依仏とありて。其後市紅院小安置せり。麓堂建立此也。天明

のりより大坂小猿宿一。具負構申駁一。去々年午

乃をる。くくわく江戸の表田小畑あり。右今此名之田

とらふ評判と八百八町寄附せり。麓堂の傍小畑井とらふ名泉

あり。此井の内は疎小上も蛇といふ蛇をきて作ら。いひ伝ふ

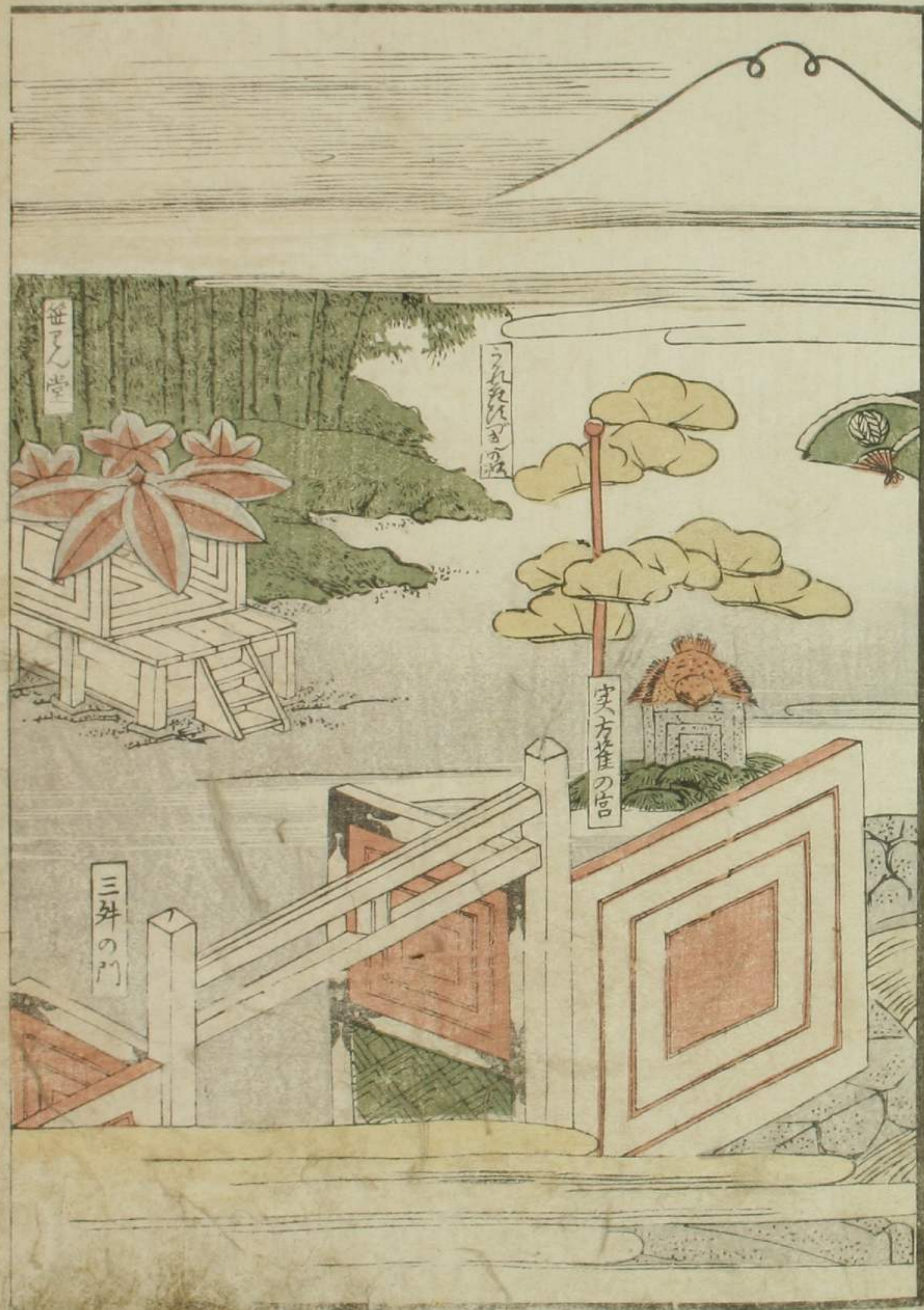
境内小畑は兼畑ありて武通の棚と盛をり。非人敵討下

坂の名叙実盛が布引此流の系。長崎劫解由々黄金の末刀石見

が此八人桐史補。その外移り乃靈室表田ためく開帳あり。

系流の群某押とわけら。府元のお答糕とらふ無名





ちゅうしゃじゆんらんどう  
 中車寺笹輪堂  
 とのりのまつ  
 尾上松

あふちや

また

又

長乃雪

羅文

此時より賣るる。かゝ本の表実、其は指ハ。吾亦其の  
流あり。市川の流も、今亦其の流あり。

市川やきびく、程に流結の細くとり、大きくもや。

團三樓子薬師

市紅院の前立、石山山の信正乃、此の證

の上より、此建立、古今亦、乃靈像なり。

中車寺笹輪堂

市川の一流元祖、定花山八百藏主、乃建立、亦

一して、既小三世了、乃及、今、此笹輪堂ハ、江村の金平小僧、了、び

を、市川の waterfall 堀をとり、愛生男子、乃法力を、あひ、勿ち

小山を、切り、きて、市川の流、も、石堰入、進、ゆる、中車寺を

再興せり。當亦、早、亦、若、流の、幼、平、土、中、の、流、地、を、納、を、と。

浅るが竹林、小ハ、評判の、高、菴、を、建、つ、ぬ、是、より、高、上、小、より、何、々、作

を、越、を、り、古、多、な、八、節、を、流、が、若、を、の、石、燈、籠、も、ち、此、道、は、光、を、増、し

く、助、六、の、齋、乃、る、より、安、房、上、徳、の、け、し、き、成、え、せ、る、築、山、の、り、忠、信

の、在、後、の、少、源、九、節、狐、の、祠、を、修、り、実、方、塚、の、菴、は、宮、小、ハ、系、流

乃、見、持、ぬ、ち、り、く、中、車、と、信、を、成、起、し、び、う、れ、彦、次、の、三、味、山、ハ、

貝、負、川、の、本、亦、か、れ、く、當、寺、女、人、の、取、依、佛、を、り。

爪、も、立、を、横、よ、り、も、の、丈、入、を、蟹、も、立、似、れ、ぬ、八、百、花、の、を

女、乃、た、も、や、や、女、物、也、其、前

高懸山錦江仙人拙

松本三岱の名山あり、山上、小、錦、江、仙

の菴あり、修、く、吹、針、仙、は、小、三、の、銀、杏、を、守、ぬ、く、衣、と、り

おとつと  
 おの山  
 城川  
 去来

暖地長き河



花び山

いづ山

高麗谷父子山圖



曰つ花菱を踏んで帯もも。年七十も及んで形をわたり  
む。或時ハ足物に雲を配し。又あまの行きのきりやう  
ゆふき恵が琴奏の松八千家の茶は湯沸より。帯を川  
長右衛門が名を踏し。比翼塚の長左衛門の切を止む。世経時代  
何でもやらざるの意は。梨の古本多し。昔もやうに津の祠  
多。世人一番はも居たりといふ。

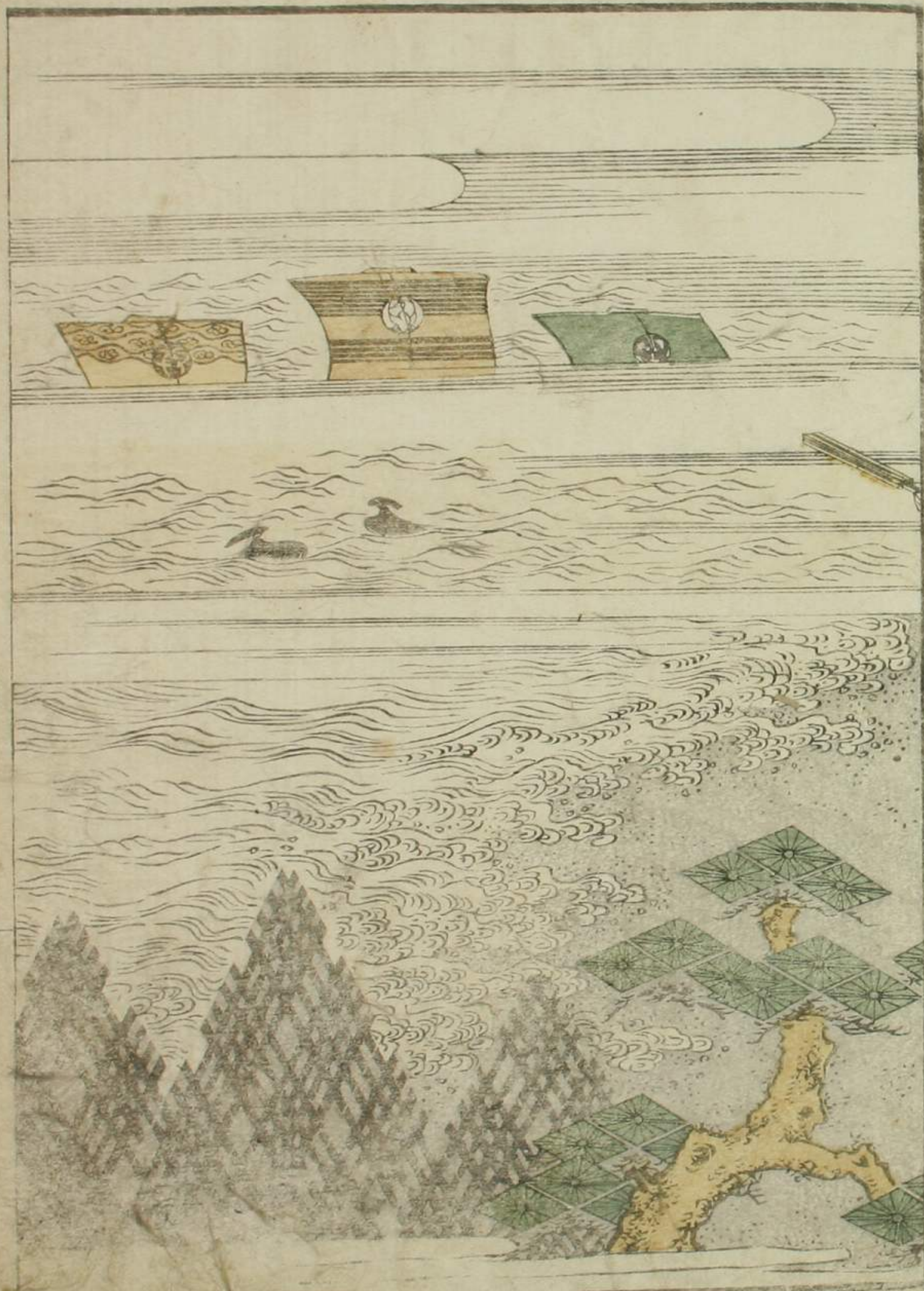
形こそや命くぎり乃 賢くつら 東園舎

嗽く惚くいものわり惚くおとがし。桑揚店宛

彦三祠 当社坂東山新水院は法衣ありと。三座  
考曰市村大夫元成以血脈之見再與之云。此堂を年紙下

流行せし。諸人も教の守と崇む。石の多居るありと。流  
付て舞臺はかりとあり。梅幸氣鳥といふ大まけ祠のつら  
しめあり。敵役を巨進の内小。罰利生がうく。又元流室乃  
口伝伝はれを。聲機發乃上まぐも。小男麻の八つの内耳  
とありまぐも。しめ。まぐも。代々唯一は  
実事士といふべし。本舞臺の正面小神輿と。是時ハ  
よまくといふものいれど。まぐもといふものあり。後馬  
樂屋の大帳よのぼりほろ。坂東は名物。実も芝居の神  
乃津あり。

形こそや坂東一乃 賢くつら 東園舎



ひこの不<sup>ふ</sup>三<sup>さん</sup>祠<sup>ひら</sup>  
 彦三祠  
 海邊風景圖  
 簑助稻荷

夕風と  
 柳

浦色  
 柳

羅文

羅文

尾上松

枝ほつたりて重の扇乃ぞく。又抱柏も何ぞし。  
梅幸上人多植の名本をそとく。そとく女松ありてふ優

かとしが。深牙大木とせりてなま枝をくけりてとて

そごぶざらていり終しく。今ハ加多木は松とせりて。師匠

お侍の由良鬼は権小佐むとい侍よ。この本乃松よ一の穴

あり。あれを浮世の穴といふ。松の枝風ふつねく此穴を搦れ

べ。そのふ忽ち親場へおちて来る。を年かど山の思友の株

みりてはきりて。糸を最切りし。位下ら始皇帝は雨

会とらげ台ちかおハ季れが掛し。御をも解せ。松の聲

花よと風を己が琴ふしく松を動かぬお代のまの

高麗寺金針水

此水錦江山の麓より流れく。末ハ市川の大河とせり。

睨の光るみ常ふまて世人若人乃若水と貴嘆也。若ハ鼻此峯をく

聳て。水中舟敵岩あり。清齒が洞清玄が菴はつりふ近。明智が

城込のまて大ききまて。當ふよ実惠武道明王と安置せり。大神の

祠ハ仁木が龍おとといふ。末ハ河を。此の伊久り杖突の玉柳を。

坂三津塔

此塔是業尾里に河を。塔の鼻柱をいふ。尾上の

坂三津塔 此塔是業尾里に河を。塔の鼻柱をいふ。尾上の

坂三津塔 此塔是業尾里に河を。塔の鼻柱をいふ。尾上の



あじまきんどう  
 嵐山三八堂  
 むんりんのま  
 坂三津塔  
 たきのわげちり  
 瀧野谷四楓



鴉啼屋角  
 柳藏煙  
 一帶人家  
 住水邊  
 最愛晴春  
 三月暮  
 夕陽斜繫  
 釣魚船  
 徐電

かまき村よ。大カキのたて煙草を賣ゆ家あり。志うち此塔を鯉  
 の彫物なり。世ふねを志うちの塔鯉と云ふ。此塔のち三役社と云ふの  
 名所乃その一つなり。三役社のち十橋乃いふ。此塔のち三役社と云ふ  
 嵐山三八堂 上ぐの古跡あり。室晋弁其角が。雪乃子も子  
 いろと登たりしも此所なりと云。六角堂乃桐門ハ三五樓傳  
 来の山門なり。神前之宝物體のあり。獅子ハ場がらうと云。高  
 ちれ。ふく井の清水は出塔を松乃古木あり。むらうと押のき  
 見物のちけ居ふ。まよと云。三字此額ハ文字會の草ありと云。

瀧野谷四楓 此楓新車坊の庭あり。坊の構を羅あり。むらう  
 其角

薪車夫人。四楓を以て柱とせしより。今業平の古松と云。吾松  
 小僧の菴今細と云。五序ハお高は茶葉を荷く。水際乃り  
 男山ハ常小女の持山ふりし。光陰ハ庭のやうなりと云  
 今の男女艸菴ハ二代の名ふと云。親の傍石ハ上子お高  
 此塔流石あり。秀鶴其似影の西影ハ。此所より出ると云。

具負のつと山ハ杖先の句ふと云。神判乃りけしなり。

わけ合ふの奥より色ほきて花ハ逆の雲けり。ち葉よと云。

ほりふまらう町中けり。夕とみちら

義助稲荷 云大の正統是業名人 一体の大地あり。板  
 三津のまら火ハ。親の影ハ光を塔と。出米屋ハ二位。若計







とやあつたより更のころより社地荒廢に及びたりを谷村の寅義院  
 乞を嘆き養ふ故其の唐人羅紗裏の地地の相美強を以神戶  
 造り終人合併の志を起し其の具負夥しくなり丁己の  
 冬よりより八再興令々故終志を盤胃むりに流塔一ぬ巻中載る所  
の宗十條門社  
 隆作及び大友の社ハ後堂建立のころ當昔京原建は御本をといも各江戸舊  
 敷の一大名所なり野更に海邊よりなるの勝地あるにやる御座の目をばりてこそ出せり  
 荒五樓新三井井 びりー中村の久米山乃桐原ト依野  
 川の市松と多。此相と松を伏く遂は荒五樓此臺を造り別  
 市川乃水を堰入もて。市江代の井戸とや。これ瓜立役乃  
 堀がー井戸とや。

戲子名所圖會卷之二 終

